

子どもの社会性とメディア接触との関連

向田久美子・酒井厚・一色伸夫・坂元章・菅原ますみ

1. 目的

メディア接触と社会性の発達との関連については、論議を呼んでいるが、今のところはっきりした知見は見出されていない。本研究では、第3回調査で作成を試みた幼児期の社会性に関する尺度を用い、子どもの社会性とメディア接触との関連について検討した。

2. 方法

調査対象：平成14年2月～7月に川崎市で生まれた子ども（調査時2歳）のうち、調査開始時点（Time1）から3時点目（Time3）までの経年調査に参加し、今回の分析で用いた3時点にわたる尺度すべてに回答の得られた687家庭の母親と父親を対象とした。

「協調性・共感性」尺度の作成：乳幼児期の子どもの社会性に関する6つの尺度（津守・稲毛式、S-M社会生活能力検査、SCBE尺度など）を参考に、子どもの社会性を測定する尺度の作成を試みた。15項目について調査を行い、結果に対し主成分分析を行い、協調性・共感性に関する項目群として解釈可能な7項目を選び、子どもの社会性の一要素である「協調性・共感性」を測定する尺度とした。

3. 結果

子どもの「協調性・共感性」尺度得点を検討した。男子より女子のほうが高く、保育施設を利用している群のほうがしていない群よりも高かった。また、子どもの月齢や出生順番、友人の数や友人と遊ぶ回数、母親の暖かい養育態度との間に弱い正の相関が、母親の抑うつ傾向との間には弱い負の相関が見られた。また、子どものメディア接触量との関連については、テレビ接触量やビデオ接触量などとの間に、弱いながらも負の相関が認められた。

つぎに、「協調性・共感性」尺度得点を従属変数とする階層重回帰分析を行った。子どもの「協調性・共感性」の個人差との関連がみられた諸変数を説明変数とした。その結果、子どもの「協調性・共感性」と有意な関連が示されたのは、「月齢」「出生順番」「保育施設を利用しているかどうか」「友人の数」「子どもの気質的特徴」そして「母親が子に抱く信頼感の程度」であった。メディアの接触量との関連は認められなかった。

4. 結論

以上から、子どもの「協調性・共感性」は、メディア接触量との間に全般的に弱い負の相関が見られたものの、他の環境変数や子どもの気質的特徴の影響を考慮した場合には有意な関連が認められないことがわかった。2歳時点での子どもの「協調性・共感性」の高さには、子どもの月齢が高いことや出生順番が遅いなどのほかに、子どもが仲間と実際に接する機会が多いかどうかや、子どもの気質的特徴に慎重すぎるところがなく辛抱強い面があること、また母親との間に良好な信頼関係が形成されていることなどに関連することが示された。